

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 5日

事業所名 なかぞのフォア・アス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		
	2	職員の配置数は適切である	80%	20%		職員全体の人数が少ないため、増員を目指したい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	70%	30%		玄関先に段差があったりと、古民家をリフォームしているが、段差は多い。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	90%	10%	毎年アンケートを実施しており、結果等も保護者に書面にて配布するようにしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%	60%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	70%	30%		勤務の調整がつかず、研修等に行けないことがある。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	90%	10%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	70%	30%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	職員会議の時など、長期休暇の活動内容など、職員がそろった状態で考えるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	90%	10%	平日は時間的に行く場が限られるため、長期休暇で新しい場所などに挑戦できるようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%	利用時間などをみつつ、課題の量などは調節するようにしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	90%	10%	職員全体に周知することなどは、支援の始まる前にその日の職員に伝える場を設けている(昼礼)	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	90%	10%		打合せ等の場は設けていない。その日の担当について職員が次の担当につく職員や、共通理解を図っていったほうが良いことなどを伝え合うようにはしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	70%	30%		徹底までには至っていない。職員に記録の徹底を周知していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	20%	80%			

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	90%	10%		勤務の関係で、代わりの職員が出ることもある。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	60%	40%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	60%	40%		受け入れる体制が整っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	40%	60%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	60%	40%		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10%	90%		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	20%	80%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	90%	10%	送迎時や連絡帳にて伝え合っている。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20%	80%		職員のスキル不足もあり、支援までは行えていない。研修等に行き、スキルアップを目指したい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	70%	30%	利用の契約をするときなどに、事前に詳しく説明するように心がけている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	50%	50%		傾聴することはあるが、助言まではできていない。研修等に参加するようにし、職員全体のスキルアップを図っていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20%	80%		保護者同士が関わる場を設けていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	60%	40%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	50%	50%	広報誌(伝書鳩)の発行をしている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	90%	10%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	70%	30%		保護者に周知するまでには至っていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	60%	40%	虐待防止の研修などは、職員が順番で受けるようにしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	60%	40%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	50%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	ファイルに閉じて、全職員が観覧できるようにしている。	